

—ケルトの神秘—

【浅香佳子】

映画『ロード・オブ・ザ・リング』(原題: *The Lord of the Rings*) が 2002 年、3 月に松竹の東急系で封切られて以来ロング・ヒットを記録している。小説の世界でも、やはり J.R.R. トールキン描く『ホビットの冒険—ゆきて帰りし物語』(Hobbit)、そして J.K. ローリングの『ハリー・ポッター』がヒットしている。いずれの作品にも現実の世界では起こり得ない超自然的な景色や出来事が出現し、我々に夢と幻想に彩られたファンタスティックな世界を提供してくれる。この超自然的要素は古代ヨーロッパに遡るケルト民族の文化に源をもつものである。ケルトという名を初めて聞く人も多いだろうが、実は今日の我々にとって馴染み深いものが多い。例えば、ファッションの世界では英國リバティ社のブラウスやカーテン地の意匠が挙げられ、文学の世界では妖精や魔術、それに妖しい美しさで人を誘惑し罠に捕らえる妖姫ファム・ファタール(femme fatale)、そして様々な美術工芸品などが挙げられる。

大陸からブリテン島に上陸し、そこで定住したケルト人は、後にアングロ・サクソン人に征服されてウェールズ、アイルランド、そしてフランスのブルターニュ地方へと追いやられて、そこで今日に伝わる神話や伝承の数々を残した。これらの神話世界には、この世ならぬ美しく神秘的、そして魔法のかかった世界が出現する。いわゆる異世(ことよ)の世界だが、そこに出でてくる城は危険を孕み魔力を帯び、森は神秘に包まれ、魔女たちや妖精、怪物たちに住みかを提供する。

一つの指輪は、すべてを統べ
一つの指輪は、すべてを見つけ、
一つの指輪は、すべてを捕らえて、暗闇のなかにつなぎとめる。



主人公のフロド・バギンズ
—映画『ロード・オブ・ザ・リング』より—

『指輪物語』(瀬田貞二訳、評論社)

となった…魔法と伝説に満ちたスリリングな神話世界がここに始まる。

「昔むかし、今から数千年前に恐ろしい指輪が作られ、人間には九個、小人の王たちに七個、妖精の王たちに三個与えられた。だが、人間の宿敵、闇の王サウロンはその全てを支配する指輪を作ることに成功した。その指輪があればどんな敵にも勝つことができた。しかし、指輪は自分の意志でその持ち主を変え、本当の持ち主の手に戻るべく、大河アンデュインの水底に沈み、数千年が過ぎた。その間に闇の王は人間から指輪を奪い、その持ち主を奴隸にし、醜い姿にして世界中を走らせ、全てを支配する指輪を搜させた。やがて指輪は発見された。…」指輪の持ち主である主人公フロド・バギンズは世界の運命を背負って闇の力と戦うこと

さて、『ロード・オブ・ザ・リングス』に多大な影響を与えたケルト神話の世界には、英語の世界には見慣れないカタカナでくわす。大陸のケルト人が移り住んで、アイルランド・ゲール語やウェールズ語となったケルト語である。例えば、永遠の春の国は、ティール・ナ・ノグ(Tir na nog)、妖精王である海神マナナン・マック・リール(Mananan Melir)、半神半人の英雄クーフーリン(Cuchullin)、地下にある妖精の国アンヌン(Annwn)など。神話の世界に不朽の名声を残したアーサー王伝説の下地となったのも、このケルトの伝承世界であるが、現実と神話の世界が混ざり合ったところにその人気の秘密があるのだろう。

国コミ留学生の作文の中から。。。。

My Thirsty Heart

【李春愛】(二回生)

渴望

每天傍晚，一个人，带着渴望，
我漫步街头，尝试某种发现。
总是觉得，
我所要求得并不很多。
可是，为什么？
过了这么多年，
我仍旧尝试在漫游中……

My Thirsty Heart

*Every evening, lonely and with wistful eyes
I am walking, and looking for something.
I always think.
What I want is very few.
But, why?
Years gone by.
I am still wandering....*

渴望する我が心

每晩、独り、熱望に満ちた目で
散歩しながら、私は何かを探している、
いつも考えている。
欲しいものは僅かなのに。
でも、何故？
歳はとっても、
相変わらず迷っているのか……

もし私に・・・【劉学】(三回生)

「もし私に1千万元あったなら、私は部屋を買えます。私は1千万元ありますか？ない。だから私は、今まで部屋がない。

もし私に翼があったなら、私は飛べます。私は翼がありますか？ない、だから私は飛べない。

太平洋の水を全部出しても、あなたを愛する火を消すことができない。太平洋の水を全部出せますか？できない、だから私は、あなたを愛さないわけにはゆかない。

もし私にもう一日の命があったなら、その日私はあなたの彼女になりたかった。もう一日の命がありましたか？ない、だから、この世であなたの彼女になれなかった。

もし私に翼があったなら、私は天国から飛んできて会いたい。私は翼がありますか？ない、だから、これからもう会えない。

お風呂の水を全部出しても、あなたを愛する火を消せない。お風呂の水を全部出せますか？はい、そう、できます。だから、愛しています。」

これは先日読んだある小説のプランです。何回読んでも涙が出るほど感動します。私は大好きです。あなたはどう思いますか。

日本語の中の外来語【金蓮花】

(二回生)

私が日本語を始めたのは、今から六年前の中学校一年の時でした。その時、映画で日本の女性の美しい話し方を見ながら、私もそんな日本語で話したいなあと思いました。だから学校での日本語の授業は、私にとって楽しいものでした。

やがて来日。映画と文学の中の日本語しか知らなかつた私は、非常な衝撃を受けました。私が中国で勉強した時には本当に少なかつた外来語が、日本の日本語にはたくさんあつたからです。今のアルバイト先でも「ライス一つ」とか、「から揚げワンピース」とか出できます。最初の時にはボーとして、「すいません、もう一度お願ひします」と聞き返しました。学校でも「2たす2」の代わりに「2プラス2イコール4」になつています。

では日本語というのは、こんなに多くの外来語を必要とするような不完全な言語なのでしょうか？いや、日本語は一つの独立した起源を持ち、完全で表現力のある立派な言語だと

思います。しかし残念なことに、同じ言葉が現在中国で生き残っていますが、日本では欧米の言葉にとって替わられています。

なぜなのでしょうか。立派な伝統を持ち、優れた技術を持ち、完全に近代化した世界の経済大国が言葉ではなぜこうなのですか。日本人は自らの手で日本語を捨てていると言つては失礼でしょうか。毎日使われている日本語をよく聞くと、日本人が日本人であることを忘れようとしているのではないかと感じられます。

これから日本語は一体どうなつて行くのでしょうか、どう変わって行くのでしょうか？どんどん入つて来る外来語は、どこまで美しい日本語を殺して行くのでしょうか。考えなければならない事だと思います。美しい日本語、美しい日本の心を大切にしてください。美しい日本語を救ってください。

私とボランティア活動【王沁柔】

(三回生)

二年前、日本に来たばかりの頃、私は日本語が全然話せなかつた。日本語学校での勉強だけではなかなか上達できないで困っていた時、友人がボランティアの人達による日本語の「読み書き茶屋」を紹介してくれ、私はすぐ通い始めた。この教室にはいろんな国からの仲間が参加していた。同じテーブルを囲んで真剣に勉強し、お互いに言葉を交わすなかで、それぞれ違った人生経験をもつた人々とのつながりを得ることが出来た。それは、国籍や文化の違いを超えて生まれてきたまるで国際的な大家族のような感じだった。講師の方もとても熱心で、多くのことを学ばせてもらった。またこの教室で勉強するにつれて、ボランティアの人や世界各国の仲間と親しくなり、「心を開いたら国境の壁も越えられる」とつくづく感じた。

昨年の冬、大阪で第3回東南アジア競技大会が開催されるにあたつて、ボランティアが募集された、私は人の役に立つ良いチャンスだと思って、早速申し込んだ。そして開催日の半年前からボランティアについていろんな訓練を受けた。いよいよ開催日を迎へ、私は選手達を語学面でサポートすると同時に、他のボランティアの人達と力を合わせて、良い競技

次ページに続く・・・

ちんぶんかんぶんだ

【Peter Hawkes】

「ちんぶんかんぶんだ」。英語でいうと “It's all Greek to me”、つまり「私にとってはギリシャ語みたいだ」。つまり、分からぬといふ意味である。しかし、およそ 2500 年前に栄えた古代ギリシャ文明の言葉や、その後西洋文明の担い手になった古代ローマの言葉（ラテン語）は英語のみならず今日の日本語にもその影響を与え続けている。たとえば、「サラリーマンはアニメが大好きだ。テレビのチャンネルを回してアニメの番組がなかったら、借りてきたビデオで毎晩必ずみる。」という文の場合、この中のカタカナ言葉は英語を通して日本語に流れてもかかわらず、すべては古代ギリシャ語またはラテン語の由来である。

「サラリーマン」の「サラリー」は英語の salary（給料）を通してラテン語の *salarium* から来ている。さらに遡ってみると *sal* がある、つまり「塩」。人間の命を支えるのに一番重要な物である塩は古代ローマの兵隊にサラリーとして支給された。「アニメ」は英語の *animated film* の略だが、そのアニメの映画に出てくるキャラクターは生きている animal と同じよ

うに anima（ラテン語で「息」「命」「魂」という意味）をもつてゐるように見える。テレビは英語の television から来ているが、それはギリシャ語の *tele*（「遠い」）とラテン語の *visum*（「見る」を意味する動詞の受動形）の組み合わせである。同じラテン語の動詞の「私が見る」を意味する形は video である。最後にチャンネルは「水路」という意味の英語の channel、更にラテン語の *canalis* がもとで、日本語ではテレビ番組の流れてくる決まった波長の路のことを言う。

ここまで読んでくれた方々には、ちなみに次の二つも面白いかもしれない。一つは日本人がよく知っている、サラリーマンと同じくラテン語の *sal* が語源の単語はサラダである。サラダでは塩が味付けと野菜の新鮮さを保つために欠かせないものである。もう一つは英語の “It's all Greek to me” に相当するギリシャ語の表現は分からぬといふが、フランスでは “C'est du chinois”（「中国語みたいだ」）といい、ポーランドでは「トルコ語の説教みたいだ」と言うそうである。日本語の「ちんぶんかんぶん」の語源は何であろうか。調べてみてください。

架橋の人々 Human Bridges Between Japan and the West 【浅香佳子】

現在発行されている千円札、五千円札、一万円札には夏目漱石、新渡戸稻造、福沢諭吉の肖像が印刷されている。三人の共通点はそれぞれ日本開国の明治期に海外に留学し、西洋文明を吸収して日本の近代化に貢献したことである。時代は移りジェット機によって外国諸

国との距離は縮まり、さらに近年、画期的なインターネットによる技術革新によって、日常生活のあらゆる場面で諸外国との境界線が消えてしまったと言つても過言ではないだろう。夏目は英語を、新渡戸は英語とドイツ語、福沢はオランダ語を習得していた。他に、

日本と西洋の架け橋となった人物として、三浦按針ことウィリアム＝アダムス、ケンペル、津田梅子、シーボルト、アーネスト・サトウなど挙げられるが、彼らは外国語習得に骨身を惜しまず努力した。

夏目漱石



新渡戸稻造



福沢諭吉



前ページから続き・・・

大会を実現するために努力した。閉会式では、ライバルとして競い合ってきた選手達が皆良い友人となった。そしてずっと応援してきた観客や裏方で支えてきたボランティア達も喜び合う場面を見て、私はとても感動し、涙が止まらなかった。

人は絶対一人では生きていけないものだからこそ、お互いに助け合へべきだ。この活動を通して私は多くのことを発見し、成長することができた。これからも学んだことを生かしてボランティア活動を続け、人々を助けたり支えたりできるよう努力していくつもりだ。

英語で読む 21世紀の健康 【正木美知子】

健康は、個人的には、一人一人の生活の質を左右し、社会的には、地球という限られた空間の中で生きるすべての人たちが、快適に共存するための重要な課題です。この課題解決のために設立されたのが世界保健機関（WHO）です。WHO が発行する膨大な資料の中から、本学の人間健康科学科を念頭に置き、健康に関する種々の問題の認識と解決に役立つものを選んで、この教科書を作りました。この教科書は、意味有る内容を学びながら、英語力を上げるという content learning という考え方に基づいています。



恋人達の日—愛のサン・ジョルディの日

【寺本あけみ】

4月23日は何の日か御存じですか?この日、スペインではちょっとした"スペシャルデー"なんです。サン・ジョルディの日—日本の日—です。意中の相手に本と赤いバラの花を贈る、そんな行事がいつの頃からバルセロナの町で生まれました。スペインでは伝統的に、愛を告白するのは男性の役目で女性は"待つ身"なのですが、この日は女性から男性へ想いを告白できる唯一の日、あるいは告白する絶好のチャンスなのです。我が国のバレンタインデーを思わせる行事ですね。この日は特に祝日ではありませんが、バルセロナの目抜き通りであるランプラス通りは、朝早くから大勢の人々で賑わいます。普段から、通りの両側は赤や黄色の色とりどりの花が目に鮮やかな花屋や珍しい鳥などを売る店そして本屋が軒を並べ、町の人々はそぞろ歩きを楽しめます。イギリスのある作家も"世界で一番美しい通り"と絶賛するほどです。そしてこの日はいつもの何倍もの人々とバラの花と本で埋め尽くされます。

この日は町中だけでなく病院や学校などでもサン・ジョルディの日を祝います。学校では子供達が校舎や教室にそれに因んだ飾り付けをし、勇敢なサン・ジョルディの伝説を聞かれます。会社では生花もしくは造花のバラが女性によって配られたりします。実はこの行事、子供の頃から聞かれる伝説と単なる一つの偶然とが結びついてできたものなのです。その伝説というのは、この町の守り神であるサン・ジョルディの龍退治の話です。



昔、ある村に恐ろしい龍が住んでおりました。龍は村へ降りてきては暴れて人々を困らせ、村人はその龍に怯えて暮らしていました。そしてその村では、龍の気を鎮めるために若い娘が生け贋として差し出されていたのです。ある日とうとうこの王国の姫を差し出さねばならない日がやってきました。姫が龍の生け贋になろうとしていたちょうどその時、どこからか白馬にまたがった騎士が風炎と現れ、彼女を救ったのです。姫にとって、また村人達にとって大きな龍に立ち向かい、剣を振りかざして勇敢に戦うその姿は、まさしく英雄そのものだったに違いあ

りません。彼が龍にとどめを刺したとき、そこから真っ赤な



血が流れ出し、深紅のバラの花が咲き出たそうです。異教徒だったその騎士は、キリスト教に改宗しましたが、これが原因で処刑されてしまいました。そして後に聖人として列せられることになったのです。

これがサン・ジョルディの伝説ですが、サン・ジョルディというのは、スペインのカタルーニャ（現在のバルセロナを中心とする）地方方言カタルーニャ語読みで、カスティリア語いわゆるスペイン語（俗に言う標準語）読みではサン・ホルヘとなります。このサン・ジョルディの命日は4月23日。この日これを記念してあちこちで槍試合が開催される行事ができました。あのドン・キホーテの作者セルバンテスも参加したことがあります、結果は・・・残念ながら破れたそうです。セルバンテスが絶賛した騎士道小説に「ティラン・ロ・ブラン」というのがあるそうですが、この主人公ティランはまさしくカタルーニャの人々が誇りとする騎士で、サン・ジョルディの再来かとまで言われたようです。驚いたことに、この文豪セルバンテスの命日も4月23日。サン・ジョルディと本など何の関係もないけれど、騎士道小説と龍退治の伝説、そして二人の命日が同日であるという偶然。バルセロナの出版業者はこれに目を付けて4月23日を「本の日」とし、愛の象徴である赤バラを添えて本を贈るという行事を生み出したのです。バルセロナはもともと出版業が盛んな町です。それにランプラス通りのことを町の人は、こう誇っています。「この通りは、何度か繰り返された戦争にもかかわらず本屋と花屋だけは決して姿を消したことがないのだ」と。

言うなれば、本の売り上げを伸ばそうとする試みから生まれたこの行事、見事、功を成したというわけです。しかし、なんと言ってもこの日一番の働き者は本の作者達で、何千冊もの本にサインをして一日が終わります。サン・ジョルディを祝うためにバルセロナの人が買うバラの花の数は、約500万本、本を購入するために使う金額は1900万ユーロ、約24億円にのぼるということです。今では、本とバラの花を交換するこの行事、恋人達の義務であり、また良きパートナーを見つけるのに最適の日となっています。そして近年では、この行事が日本にまで及んでいるということです。